

05-10-03

下水道と治水について（意見と資料の要望）

委員 村岡浩爾

1．大降雨時の下水道の機能について

下水道は都市の排水処理を目的とした施設ですが、合流式下水道では雨水の排除も受けるため、当然治水との関連も生じて参ります。晴天時の水処理能力が維持される状態では、水質および水量の両面で何の問題もありません。雨水の合流によって処理能力を上回れば、水処理を行わないで河道等へ放流されることがあります。また、雨量がある限界を超えると、下水道に排除されず、内水氾濫を招きます。

沿岸の低平地に位置する都市では、内水氾濫の対策が必要なことは言うまでもありません。しかし、その対策をどうするか計画は必ずしも明確でないばかりか、これまでの氾濫についての調査事態が不十分と思われます。まして氾濫時に下水道が汚水処理と水量の観点からどのように機能したか、しなかったかという情報は一般には公開されていません。

2．尼崎市の年水収支のまとめから（水収支図参照）

尼崎市のホームページ HP の資料と「武庫川の現状（素案）」からまとめた水収支に関する別添の図（尼崎市年水収支）から、治水に関係する事項について、以下のようなことが判ります。

- ・ HP では不明なもので、ある程度科学的に推定できるものは推定値を用いざるを得ない。
- ・ 上水はすべて他河川（猪名川、淀川）から取水している。その量は雨量に匹敵する。上水の配水量（6780 万 m³ / 年、以下同様）と有収水量（4800、下水へ入る）の差が大きい。不明水量の増大に係わっている。この点での正確な資料がほしい。
- ・ 表流水（3006）はすべて内水（湛水）なしに下水道に流入したとは限らない。大雨の時にどの程度に下水があふれ、どのように水が引いていったかが不明である。下水処理場の稼働記録、ポンプ場の稼働記録と共に実態が把握されるべきである。
- ・ 尼崎という臨海立地の都市での水収支から、水循環の特性がある程度明確になった。同様に他の市における水収支のまとめから、それぞれの地域の水循環の特徴を検討し、武庫川の全体像が概観できると思われる。そのためには水の収支に係わる資料が必要で、必ずしも HP で検索できるものでない。

以 上